



UNIVERSITY OF TOYAMA

CIER NEWS

Center for International Education and Research

Vol.8

富山大学
国際交流センター
ニュース
2017

富山大学国際交流センター

〒930-8555 富山市五福3190

TEL/FAX 076-445-6106

<http://www.ier.u-toyama.ac.jp/>

おも
で
思
い
出



Welcome Party



スタディ・エクスカージョン とやまし みるぞくみんげいむら
富山市民俗民芸村



たなばた
七夕イベント



となみチューリップフェア

がくせい 学生からのメッセージ



留学を終えて

じんぶんがくぶ じんぶんがくか ねん
人文学部 人文学科 3年
いそが いまほ
磯貝 美帆

給付型の奨学金をいただき、一年間中国遼寧省に交換留学してきました。

私が留学した先は比較的日本人が少ない地域だったため、中国人とはもちろんですが、留学生たちと一緒にいても、韓国人の集団と行動する時は韓国の文化に、ロシア人の集団と行動する時はロシアの文化に合せていました。その中で、世の中には自分が想像する以上に様々な社会、文化、風習があると感じました。今までも多様な文化があると理解していたものの、その一部と直に交流したことにより、全体がいかに大きく複雑であるかを感じ、底知れぬスケールの大きさに恐怖を覚えました。また同時にこれからも多くの文化に出会えると喜びを感じました。この留学は、語学力の向上はもちろんですが、それ以外にも得るものが多い留学となりました。

留学の理由は人によって大きく違います。語学留学でも、ある人は十分準備をして現地での生活に困らないほどの語学力を身に付けてから行く人もいますし、逆にほとんど話せない状態で留学する人もいます。具体的に現地での調査内容を決めてから行く人もいますし、とりあえず海外に行ってみたいから留学という選択肢をとる人もいます。また中国で知り合った人の中には、中学卒業後すぐに親の反対を押し切り単身中国へ行った人、逆に行きたくないと言きながら留学させられた人もいました。

人によって留学の理由・状況は様々です。しかしどのような人にとっても生まれ育った文化を離れ異なる文化の中で生活することは、良くも悪くも新たな視点を得るきっかけになります。語学は日本でも学べるからわざわざ海外に行く必要はないという意見もありますが、少しでも行きたい気持ちがあれば行動すべきです。留学してみたいという自分の気持ちを大切にすべきです。

選考があるんじゃないの？自分でも行けるかな？お金が無いと行けないんじゃないの？などなど、悩んでいる人は国際交流センターや、実際に留学した先輩、留学窓口教員に相談してみてください。私は留学したいと思っていることをなかなか言い出せなかったのですが、友達に一言こぼしたことで、とにかく海外で生活してみたいという気持ちに従う決心ができました。誰かに相談することで道が開けることもあると思います。



留学した先に見えるもの

りがくぶ ちきりかがくか ねん
理学部 地球科学科 4年
みくに よしなり
三國 志成

これをお読みになっている皆さんは今留学をしようとして迷っている方でしょうか？それとも留学はするけど、やっぱりなんか不安、そういった気持ちを抱えている方でしょうか？そんな皆さんに贈りたい言葉があります。それは No pain, No gain

です。日本語に訳すと、痛み無くして得られるもの無しです。つまり私は皆さんにリスクや不安を背負いながらもその先に得られるものをつかんで欲しいなと思います。一年半の留学を振り返ってみると、私が成長したと感じた時は色々苦勞を乗り越えた時でした。だからこそ、No pain, No gainというフレーズは事の本质を突いている諺だと思いました。そこで短いながらも私の留学体験を少し紹介できたらと思います。

2016年1月9日からアメリカ、マサチューセッツ州のHolyoke Community Collegeに長期休暇を挟んで約一年半留学しました。この期間はちょうど三学期分に相当し、最初の学期は主に英語を中心に勉強し、二学期目は留学目的でもある再生可能エネルギーの概論に相当する授業を受けました。三学期目はインターンシップに参加しました。これは二学期目に偶然にもインターンシップを受けるチャンスがあることを知り、授業料も奨学金が出ることになったので良い機会だと思い、インターンシップを受けました。

一学期目は英語の勉強に集中するためにESLのクラスに行きましたが、正直なところ、一緒に住んでいた三人のアメリカ人と一緒に行動していた時の方が英語の勉強になりました。特に彼らの英語はとても早く、彼らは週末になるとよくハウスパーティーに出かけました。彼らは一旦ビールを飲み始めると何をいつているのか全くわかりませんでした。しかしそこに耳を傾けてなんとか言っていることを理解しようと努力した結果、一学期目の終わりに頃には頑張っついていけるようになりました。

二学期目は現地の学生と本格的な授業に参加しましたが、最初は彼らの話の5割ぐらいしか聞き取れませんでした。一旦議論が始まり、話が脱線するとお手上げの状態でした。でも二学期の終盤を迎えると、だいたいのことは聞けるようにはなりました。それでもやはり現地の人話すスピードは本当に早いです。まだまだ勉強が足りないと感じた時期でもあり、特に周りの留学生の勉強に対する鬼気迫る姿勢には感化されました。自分の英語が出来なさすぎて、悔しくて悔しくて何日か寝込んでしまったことさえありました。今、思い返せば自分は全然大したことではないことを思い知らされた時間だったようです。

三学期目は正直なところ、この一年半の留学の中で一番これからの就職活動を考えさせてくれる時間でもありました。この時期はインターンシップと学校の勉強を並行し、インターンシップでは主にマーケティングの業務体験を二ヶ月程体験させていただきました。始めた当時は日本の資源エネルギー庁が出しているエネルギー白書の一部を日本語から英語に翻訳していたのですが、三学期目終了時には、このマーケティングが自分の就職に対する考えを変えてしまうとは思っていませんでした。それは翻訳しているうちに、日本の再生可能エネルギーの市場、特に太陽光発電の製造の市場が縮小していたことを知ったのです。高校の時からエネルギー関係の仕事に就きたいと考えていた私は将来本当にこの分野で働いていいのかと少し不安を感じ、これからの就職を真剣に考えさせてくれる貴重なインターンシップの機会でもありました。

留学していた一年半の最初の時期は本当にしんどかった時期もありましたが、終わってみると、あの時にしんどい思いをしたおかげで留学する前よりも自分の中での考え方や価値観までもが変わりました。そして成長とは後になって感じるものだなと思いました。だから留学を志す学生は何も恐れる必要はないです。その先に得られるものはきっと想像以上に大きいからです。



いちごいちえ 一期一会

にんげんはつたつ か がくけんきゅう かく
人間発達科学研究科 特別研究学生
黄 亜蘭

11ヶ月はあっという間でした。こんなに早いとは思わなかったのです。富山に着いた日のことはまだはっきりと覚えています。同じゼミの女の子が迎えに来てくれました。随分年下にも拘わらず、しっかりしていて、思いやりのあるいい子でした。いろいろ助けてくれて、彼女のおかげで、私の留学生活は初めからなんの不便もなく楽しむことができました。指導先生のゼミに入っていたこの11ヶ月間には、中国と全然違う勉強の仕方や雰囲気を楽しむことができ、とても貴重な経験をしました。先生を含めて4人だけのゼミでしたが、楽しかったです。論文について、毎回貴重な意見や独特な見方を聞かせてくれました。少し大変でしたが、とても勉強になりました。少し厳しそうに見えますが、本当に生徒のことを思うよい先生です。尊敬しています。

富山大学に留学が決まる前に、中国でのバイト先で、以前富山大学に、しかも同じ人間発達科学部で二年間勉強したことのあるお姉さんに会いました。とてもいい人で、私が富山大学へ留学に行くことを知ってから、いろいろ話をしてくれました。「時間があったら、国際交流センターに行ってみてくださいね」とも言ってくれました。今でも、初めてセンターに行った日のことを覚えています。玄関で入ろうかどうしようかと迷っていると「ここは留学生のためのところですよ。自由に入っていますよ」と迷っていた私に声をかけてくれました。センターに入ったあの日に、みなさんと出会いました。そこから、私の留学生活が始まりました。

富山にいるこの一年間、本当にたくさんの素敵な人と出会うことができました。中国人、日本人、韓国人、ヨーロッパ人、東南アジア人などなど。そしてセンターのみなさん。いつもセンターでみなさんと面白い話をしたり、涙が出るほど笑い合ったり、イベントをしたりして、楽しい思い出をいっぱい作りました。そういう些細な喜びや楽しみは毎日の幸せとなっていました。

留学しているからこそできることをたくさん経験しました。いろんな人と出会い、様々な文化に触れ合うことができました。自分に挑戦し、少しは自分を変えることもできました。大事な友達も楽しい思い出もいっぱい作りました。その中で得られたことは思ったよりずっと多かったです。感謝の気持ちがいっぱいです。

「会話は別れの始め」という言葉のように、人生はたくさんの出会いとたくさんの別れで織り込まれたものです。楽しいほど別れは悲しいです。それでも、人との出会いを大切にしなければなりません。「会話は別れの始め」であるからこそ、一つ一つの出会いは全て「一期一会」です。そのすべてが自分の人生を織り込む大事な宝物です。



私の日本留学

にんげんはつたつ か がく ねん
人間発達科学部4年
リム ホン シ ユン
LIM HONGSHUN

「君を日本国内に入れさせることはできませんね。このまま帰ってもらうことになります。」これは、日本へ留学するために関西空港に着いた私に、入国管理局から最初に言われた言葉だ

った。どれだけショックだったか。外国へ行き、そしてそこで生活するということすべてが、私にとり初めての事であった。当時は春で、入国管理局での申請も混雑しており、そして大学での手続きの都合もあり、私は旅行ビザだけで日本に入国したため留学ビザと在留カードの発行をその後1か月も余儀なく待たされた。在留カードを持っていなかったということで、銀行口座開設、携帯電話の購入などもできなかった。その結果、家族との連絡もできず、警察に止められることを懸念し、パスポートを身につけて出かけ、所持金を長く持たせるために安くて味があまり良くないカップラーメンばかりを食べる毎日だった。

それでも、日本留学をあきらめなかった。私は、母国で中高一貫校を卒業し、日本語を50音順からセンター試験並みの実力まで約2年間まっしぐらに勉強してきた。そのために、家族や親友との時間を全部日本語の上達に費やしたが、後悔はなかった。自分の夢である日本留学を叶えたからだ。中国語ではこういうことわざがある。「神様は君に大いなる役を命じるとき、大いなる試練も下す」とある。私が日本留学試験と大学の入学試験を突破した矢先に、次の大いなる試練が下された。それは窮地に追い込んで、そこから立ち直るという試練だった。

幸いにも、私はやさしい先輩方、よい友達、そして可愛がってくれる先生方に恵まれ、皆様にお世話になったが、さらに色々な方の手も焼かせることとなった。私は空気の読めないタイプの人間で、初めての日本はカルチャーショックのみならず、コミュニケーションを取ることに難しく思えた。そんな私でさえ受け入れてくれた国際交流センターの皆様にご心よりお礼の言葉を申し上げたい。私をまるで家族のように接してくれたおかげで、毎日欠かさず国際交流センターに通っていた。もちろん、その理由の一つとしては電子レンジと冷蔵庫が使えたからでもある。

二年生の時は、高額な給付型奨学金に恵まれ、以前よりも余裕をもって生活ができ、自立した生活が送れた。それは家族からの経済的な支援がなくても、生活費や授業料、そして様々な出費を奨学金とバイト代で賄う自立した生活だった。もともと私は、父と2歳年下の妹の3人家族で、日本にいる私と同時期に、妹も地元の大学に入学したため、父親の経済的負担は一気に増した。奨学金を得ることで私は父親を楽にさせる良い機会と考え、また自分自身一人前の男になるための試練とも考えた。

その頃の私は、ますます周りの人々の手を煩わすようになった。特に国際交流センターの職員の方に生活上の問題や、気が付いておくべきことなど色々教えてもらった。とはいえ、日本はとても綺麗で、自己の生存を支配する神経を鈍くするほど安全な国である。私はすっかりそんな日本の社会に慣れてしまい、3年生の春に帰国した時には、携帯電話を満員電車の中で盗まれた。そんな時、国際交流センターの先生は、無事に日本に戻ってきた私に付き添い、いくつもの携帯電話会社と一緒に回ってくれた。

今、私は4年生の後期に入り就職活動も終わり、卒業研究をコツコツと進めながらアルバイトをし、卒業までのあと半年間だけ学割が使える間に、今まで行きたくても行けなかったところに行こうと思う。来年の春卒業したら社会人となり、自身の未来が平穏かつ、40歳以降はニート生活という夢のために、精一杯働かなければならないから。

今まで出会ってきた人々、お世話になった人々、手を焼かせた人々、皆さんに心の底から深く感謝している。皆さんのお蔭で、私は今日まで生き残って成長してきた。心の成長とともに身体の高さも以前よりは成長した。この4年間のこと、私は一生の宝物にします。ありがとう！

こくさいこうりゅう 国際交流センター 掲示版 (五福キャンパス)

富山大学国際交流センターは、外国人留学生の受入・支援、学生の海外留学の支援、海外学術交流協定校との学生交流に関する連絡・調整、外国人留学生に対する日本語・日本事情教育、その他の国際交流に関する諸業務、留学生教育・国際交流に関する調査及び研究などをその業務としています。詳しくはホームページをご覧ください。〈<http://www.ier.u-toyama.ac.jp/>〉 留学や国際交流等に関心のある富山大学の学生のみなさん、気軽に足を運んでください。

こくさいこうりゅう 国際交流サークル PARTNERS

4月と10月にはWelcome Partyを開催する予定です。各催しに関する案内は国際交流センター内に随時掲示します。また、センターホームページでも紹介されています。みなさん、ふるってご参加ください。

※PARTNERSとは、富山大学に通う外国人留学生と日本人学生との交流と留学生のサポートを目的として立ち上げられた学生の課外活動団体です。

コンサルテーション

富山大学で学ぶ外国人留学生のみなさん、海外への留学を目指すみなさんを対象に、相談に応じています。

担当: バハウ サイモン ピーター 教員

実施日時: 火曜日 2限・木曜日 3限

相談予約・問い合わせは、下記事務室まで

◆**申込・問合せ先**

☎ 076-445-6106

cier@adm.u-toyama.ac.jp

センターの2階には「留学情報資料室」もあります。

2017年度後期日本語課外補講 オリエンテーション

〈日 時〉 2017年10月3日(火) 11:30~13:00

〈場 所〉 共通教育棟4階A43番教室

※日本語課外補講の受講希望者は、このオリエンテーションに参加してください。

◆**連絡先** ☎076-445-6271 (小木曾研究室)

平成29年度10月入学新入外国人留学生のための オリエンテーション

〈日 時〉 2017年10月18日(水) 16:15集合

〈場 所〉 五福キャンパス共通教育棟D11教室

杉谷キャンパス看護学科研究棟11教室

〈対 象〉 平成29年10月入学新入外国人留学生

(非正規生含む全員)

※過去に参加した学生を除く

◆**連絡先** ☎076-445-6972 (副島研究室)

スタディ・エクスカーション

〈日 時〉 2017年11月18日(土) 8:45集合

〈参加費〉 無料

〈見学場所〉 五百羅漢・富山市民俗民芸村

留学生と日本人学生との「交流」を目的とした見学です。



◆**連絡先** ☎076-445-6106 (センター事務室)